

岩谷学園ひがし北海道日本語学校

1. 学校の教育目標

「わが学園は、教育を通して『努力心』『誠実心』『独立心』を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする」との学園建学の精神（教育理念）に基づき、「日本社会で学んだり仕事をしたりすることができる日本語能力と社会人力を身に付けた人材を育成する」ことを学校教育目標として掲げ、その実現に向けて尽力している。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 連携協定書に基づき地域に根差した日本語学校運営
2. 定員確保に向けて留学生の満足度を上げる改革にチャレンジする
3. 中標津町民との交流促進
4. 質の高い教育を担保する(自己研鑽・PDCAサイクル)
5. 適正校の維持(認定日本語教育機関を見据えた学生理解と指導)
6. 地域に愛される学校としての地位を確保する

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標	委員の評価	B		
評価項目				
学園の建学の精神、教育テーマ(楽しい教育)が教職員に浸透しているか				
学校の教育目標・育成人材像が定められているか				
学校教育目標・育成人材像を、教職員が理解しているか				
目標とする育成人材像に合わせ、特色ある教育活動に取り組んでいるか				
学校教育目標、育成人材像は、社会的ニーズに適合しているかを確認し、見直しているか				
学校教育目標・育成人材像が、学生に周知されているか				

①課題

本校の教育理念と目標を具現化するために、地域に根差した特色ある教育活動が有効であったが、教育目標や育成人材像を学生たちと共有されていたかについては、十分ではなかった。

②今後の改善方策

岩谷学園の「建学の精神」と「学校教育目標(育成人材像)」を各教室に掲示し、タイミングを見計らって確認するとともに、そこにこめられた思いを深掘りする機会を定期的に設ける。

(2) 学校運営	委員の評価	B		
評価項目				
理念（建学の精神）等に沿った運営方針を定めているか				
理念（建学の精神）等に沿った事業計画を定めているか				
学生数（あるいは受け入れる学生の言語数）に応じた組織体制になっているか				
規程やマニュアルが整備され、適宜参照できる状態になっており、活用されているか				
運営上のコンプライアンス(法令遵守)体制が整備されているか				
指示命令系統が明確であり、意思決定がスムーズに実行に移されているか				
固定資産の維持・管理や、備品等の購入・管理が適切に行われているか				
教育活動に関する情報公開を適切に行っているか				
情報システム化等により業務の効率化を図っているか				
運営や教育活動に必要な情報を教職員間で共有する仕組みがあり、機能しているか				
学校の短期および中長期目標が教職員に周知されているか				
日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認しているか				

①課題

学生の言語数に応じた組織体制は十分であるとは言えない。

学園共通のマニュアルは充実しているが、開校6年目で学校独自のマニュアルは十分に整備されているとは言えない。

②今後の改善方策

各学生の母語に対応できる人材を地域で発掘し、専門用語が必要な際に相談可能にするとともに、翻訳機を有効活用する。全職員がチーフとなる役割を担い、担当が変わっても困らないように業務マニュアルを作成して引き継ぐようにする。

(3) 教育活動	委員の評価	A
評価項目		
教育理念（建学の精神）・教育目標に沿った教育課程の編成・実施方針等を定めているか		
学生の日本語能力を試験などにより判定し、適切なクラス編成をしているか		
学生が到達すべき日本語能力の目標レベルが明確になっているか		
到達目標の達成に必要な学修時間を確保しているか		
教育目標に合致した教材が選定されているか		
教育内容、教育方法について教員間で共通理解が得られているか		
学習内容や学習計画(シラバス)を開示し、それに沿った授業展開がされているか		
学習成績の判定基準及び方法が定められ、学生に開示されているか		
「日本語教育の参照枠」の枠組みに沿った評価を行っているか(準備を進めているか)		
授業アンケートを実施し、評価・フィードバックを行っているか		
授業記録と出席状況を正確に残し、記録内容を教員間で共有しているか		
成績評価、単位認定の基準を定めているか		
進級要件、卒業要件を明確に定めているか		
キャリア教育・支援を実施しているか		
教育活動全体の検証・改善を定期的かつ適切に行っているか		
教員の教育力・支援力向上のために他機関で実施する研修機会への参加を促しているか		
教員に必要な「能力・資質」を向上させることを目的とした研修が行われているか		
登録日本語教員養成機関等の教壇実習受け入れに関する定めがあるか		

①課題

授業アンケートを半期ごとに実施しているが、集計に時間を要して、調査結果が改善へとつながっていない。地域的・時間的要因で、授業改善や教員の資質向上に向けた研修が十分ではない。

②今後の改善方策

授業アンケートは即日集計し、結果を用いて「良さ」と「課題」、「改善策」を協議するワークショップ形式の研修機会を設定する。研修担当教員を位置づけ、学園研修に加えて「校内研修計画」を策定する。また個人研究テーマを設定して研鑽を積み、成果を職員全体に還元する「マイプラン・シェア研修」を推進するための研修費及び研修旅費の予算を確保し、効果的に執行する。

(4) 学修成果	委員の評価	A
評価項目		
卒業後の進路を把握しているか		
進路達成の向上が図られているか		
進路達成の評価を行い、改善を図る取り組みを行っているか		
日本語能力試験取得等の外部試験結果や各種検定等の資格取得状況を把握しているか		
進級及び卒業判定のための会議が設置されているか		
学修成果を学外に対して示しているか		

①課題

学生一人一人の夢や目標・資質能力・経済状況と決定進路先とのマッチングがどの程度果たされたかを、組織的・客観的に評価する必要がある。

②今後の改善方策

定期面談や各種試験の結果を「個人カルテ」として記録するだけでなく、日常の学校生活の中で気づいた「良さ」や「価値観(考え方)」を適宜書き込めるようにし、職員の学生理解を深め、共有する。「個人カルテ」に記入された内容と卒業後の進路を照らし合わせながら、組織的に進路達成評価を実施する。

(5) 学生支援	委員の評価	A
評価項目		
キャリア教育・キャリア支援を実施しているか		
生活指導担当者を適切に配置し、学生及び教職員に周知しているか		
進学、就職に係る資料を学生が閲覧できる環境を整えているか		
留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施しているか		
日本社会・日本文化を理解するための活動を行っているか		
学生定期面談を計画・実施しているか		
学生が適宜相談に来られる体制を整えているか		
必要な場合は母語等、学生が理解できる言語による支援体制を行う体制を整えているか		
欠席が多い、学びへ向かう姿勢が好ましくない学生に対し早期のフォローがなされているか、その仕組みがあるか		
退学率の低減が図られているか		
火災・地震等の災害対応について避難方法等を定め、避難訓練を定期的実施しているか		
重篤な疾病や事故に遭った場合の対応、感染症発生時の措置を定め、教職員及び学生に周知しているか		
休日及び長期休暇中、災害など緊急時に学生と連絡を取る手段があり、対応が可能か		
健康診断を定期的実施しているか		
防災用品が備蓄されているか		
学生寮の設置・整備などの生活環境支援体制が構築されているか		

3.6

①課題

生活指導担当者は配置しているが、基本的には全職員で指導するため、学生には周知していなかった。
すべての学生の母語による支援体制は、数カ国の言語については整っていない。
学生寮に関する留学生の「満足度」が低い。

②今後の改善方策

2026年度は、教職員の役割を「主任教員」「生活指導担当チーム」「教職員研修チーム」「地域連携担当チーム」「情報担当チーム」「学生寮を含む施設管理チーム」に分担したので、機会があるごとに学生にも「チーム名」を伝える。
各学生の母語に対応できる人材を地域で発掘し、専門用語が必要な際に相談できるようにする。
学生寮に「(静かに学習や読書ができる)サイレントルーム」「(感染症を患った学生を隔離できる)ヘルスケアルーム」を設置するとともに、各寮で毎月2回ずつ、半日程度環境整備業務を行うスタッフを配置して、学生寮に対する満足度をアップさせる。

(6) 教育環境	委員の評価	A
評価項目		
教育上の必要に十分対応した施設・設備、教具、備品等を整備しているか		
教室内は十分な照度があり、換気がなされているか		
視聴覚教材やICTを活用した授業が可能な教育用機器及び設備があるか		
学内施設・設備の点検を定期的に行い、安全の確保に努めているか		

3.8

①課題

特になし

②今後の改善方策

特になし

(7) 学生の受け入れ募集	委員の評価	A
評価項目		
機関の設置者、教育内容、進路等の情報をホームページ等で公開しているか		
入学選考料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付時期、学費以外に必要な費用を明示しているか		
入学希望者やその関係者に理解できる言語での情報提供を行っているか		
公開されている情報が見やすく最新のものに更新されているか		
適切な方法で入学者の募集と選考が行われているか		
募集にあたり第三者に仲介手数料を支払っている場合、その額は授業料と比較して相当程度高額でないとと言えるか		

3.5

①課題

Facebookでの情報発信は充実しているが、ホームページの更新回数はやや少なかった。

②今後の改善方策

ホームページを更新を増やし、最新情報の発信に努める。

(8) 法令等の遵守・財務

委員の評価

A

3.6

評価項目

- 個人情報保護のための対策を実施しているか
- 職員で学校自己評価を実施し、問題点の改善につなげているか
- 学校自己評価結果を公開しているか
- アルバイト先、稼働状況を定期的に把握し、法令順守の指導を行っているか
- 在留に関する学生の最新情報を把握しているか
- 在留上、問題のある学生への個別指導を行っているか
- 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っているか
- 出入国管理及び難民認定法及び関連法令等を遵守し、適正な学校運営を行っているか
- 出入国在留管理庁ほか関係官庁等への提出、報告を遅滞なく行っているか
- 中長期的に学校の財務基盤は安定し、教育活動の継続が可能な状況を言えるか
- 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれているか
- 適正な会計監査が実施されているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

①課題

財務基盤のさらなる安定化のために、定員を増やすことを検討しているが、日本語教員の安定的な確保とスクールバスの乗車定員については、乗り越えるべき課題が残っている。

②今後の改善方策

日本語教員養成課程を有する大学や専門学校と連携し、登録日本語教員の安定的な確保に努める。認定日本語教育機関となるよう、満たすべき要件を詳細に点検し、「充足」とさらなる「充実」を図る。

(9) 社会貢献・地域貢献

委員の評価

A

3.9

評価項目

- 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励し、活動への参加を支援しているか
- 小・中・高等学校・支援学校の国際理解教育への協力や地域の人々との交流活動を実施しているか

①課題

地域への貢献度は高く、地域から「なくてはならない大切な存在」として扱われることで留学生の自己有用感は上がっているが、様々な地域団体や小・中・高等学校・支援学校との交流が増加の一途をたどっており、それぞれ意義があるものの、バランスに配慮する必要があるが生じている。

②今後の改善方策

2026年度より「地域連携担当教員」を定め、教育目標である「日本語能力」「日本社会人力」への対学習効果と、職員や学生の対負担効果を見定め、全体のバランスに配慮しながら精選する。

※ 各評価項目における評価点（「適切：4」、「ほぼ適切：3」、「やや不適切：2」、「不適切：1」）

その平均値（小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで表示）を以下の基準により表示した

評価	基準
A	4.0 ~ 3.6
B	3.5 ~ 3.1
C	3.0 ~ 2.6
D	2.5以下

評価者：岩谷学園ひがし北海道日本語学校教職員

（評価期間：2025年4月1日～2026年3月31日）